様式４

令和８年度第２回
富士見市図書館協議会
議事録

<table>
<tr><td>日　時</td><td colspan="6">令和８年９月１１日（金）　　開会　午前１０時００分
閉会　午前１１時３０分</td></tr>
<tr><td>場　所</td><td colspan="6">中央図書館　レセプションルーム</td></tr>
<tr><td rowspan="5">出 席 者</td><td rowspan="4">委　員</td><td>木下委員長</td><td>野澤委員</td><td>西村委員</td><td>黒澤委員</td><td>今井委員</td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>神馬委員</td><td>内海委員</td><td>藤巻委員</td><td>戸田委員</td><td>向井委員</td></tr>
<tr><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="5">○教育委員会生涯学習課
田中主任

○図書館
長谷川中央図書館長　　宮﨑中央図書館副館長
大里鶴瀬西分館長　　本田ふじみ野分館長</td></tr>
<tr><td>公開・非公開</td><td colspan="6">公開（傍聴者２名）</td></tr>
<tr><td>次　第</td><td colspan="6">図書館協議会
１．開会
２．各館事業報告（令和８年５月～令和８年７月活動報告）
中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館
３．その他
４．閉会</td></tr>
<tr><td>配布資料</td><td colspan="6">・富士見市図書館協議会　令和８年度９月定例会次第
・令和８年５月～令和８年７月活動報告（中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館）
・さざなみだより２０２６年７月号・８月号・９月号
・とびらしんぶん２０２６ねん８がつ
・BOOK　ADVENTURES 第２５９号
・BOOK　ADVENTURES　Summer２０２６【富士見市立図書館のオススメ本　中高生編】
・ほんのくにたんけん１・２年生むけ、３・４年生むけ、５・６年生むけ
・つるせにししんぶん２０２６年７月号・８月号・９月号
・ぶんちゃんしんぶん２０２６年７月号・８月号・９月号</td></tr>
</table>

議　事　内　容	
	図書館協議会会議
委員長	１．開会 ２．各館事業報告（令和８年５月～令和８年７月活動報告）
図書館	**【中央図書館】** ・資料に基づき報告 お話会や映画会等の数字などは、資料の活動報告の通りである。 自主事業の報告は抜粋して報告する。 ５月 「図書館ホールでミニコンサート　２０２６」省略（報告書有） 「としょかんクラブ」 としょかんクラブは昨年度から始まった事業だが、当初は一つの小学校に限定して開始した。１年間実施をしてみて、本年は市内の小学生を対象に募集した。昨年からの継続メンバーに加え、他の小学校からも参加して他校との交流もできるようになり、良い経験になるのではないかと思う。 「出張・対面朗読会」 図書館では、来館等にて読書に困難な方に出張して対面朗読をするなどのサービスを提供しているが、サービス自体をご存じない方も多い。今回は音訳者の方にもご協力いただき、市内のデイサービスセンターに出張して図書館のサービスを体験いただいた。施設の利用者の方々に、対面朗読やデイジー、音楽ＣＤをお持ちしたが、演歌などを聞いて口ずさむなど、皆さんそれぞれに興味を持たれていた。 今後も様々な図書館サービスの周知にも力を入れ、サービスの提供に繋げていきたい。 「おとなのおりがみ　おはなのリースかざり」 当館スタッフが作った少し複雑な折り紙をカウンターに飾っていると、興味を持ってくれる利用者がいて、その作り方を聞かれることがある。折り紙の需要を見込み、大人向けの事業として企画した。応募も多かった。今回は「おはなのリース」を作ったが、少々複雑で難しかったようだ。ただ、熱心に説明を聞き、作ったものにも満足していただけたようだ。物を作る講座の要望が多いので、今後も企画していきたい。

	６月 「図書館ホールでミニコンサート　２０２６」省略（報告書有） 「としょかんクラブ」省略（報告書有） 「図書館でボードゲームをしよう！」 すでに数回開催している。最初は参加者が集まらないことが多かったが、現在は定着してきて子どもも大人も楽しんでもらえるようになった。短時間でできたり、ルールや実施が簡単だったりするゲームも多く、少しの説明ですぐに参加できる。年齢関係なく楽しんでもらえるので、今後も継続して実施したい。 ７月 「図書館ホールでミニコンサート　２０２６」省略（報告書有） 「としょかんクラブ」省略（報告書有） 「中央図書館長が教える！調べる学習の極意」 今年度は当初、応募がなかなか増えなかったが、声かけやチラシを配布し、参加人数を増やすことができた。参加すると、楽しかったという声が多い。このような講座に参加してくれた子は、調べることにとても熱心で、事前に色々と調べてから参加する。また、テーマを決めるのに時間がかかる子もいたが、今回はイベントの後に図書館の人に声をかけて調べ物の続きができると伝えると、午後も残って引き続き調べものをし、一所懸命夏休みの宿題の完成を目指している子もいた。 夏休み工作会「ゴムで動くディスクランチャーを作ってあそぼう！」 工作会は人気があるため、午前と午後の２回実施した。どちらも定員に達した。ディスクランチャーとは、ディスク（円盤）を飛ばして遊ぶ本体のこと。コップなどの的にディスクを当てて遊ぶ。作成の際ボンドを使うが、乾く間に読み聞かせを行ったので、図書館の雰囲気を味わってもらえたと思う。
図書館	**【鶴瀬西分館】** ・資料に基づき報告 お話会や映画会等の数字などは、資料の活動報告の通りである。 自主事業の報告 ５月 「ぼくの・わたしのすきな本」 ４月の子ども読書の日、また子ども読書週間に合わせて、好きな本を教えてもらう。対象を「子ども向け」から、「どなたでも」と幅を広げて実施した。また、「すきな本」をご記入いただいた用紙は、桜

	のピンク色の他に新緑の緑色も加えた掲示板に飾り、季節感も味わっていただいた。 「こいのぼりを折ってみよう！」 対象を「どなたでも」とし、親子でも参加できるようにした。今年は、こいのぼりの作成手順を実際に折り紙で作って机に貼ったところ、それが目を引いたのか、参加者数も増加した。 「追悼　佐藤愛子」 佐藤愛子さんの作品も多く所蔵していたので展示したところ、色々な世代の方に手に取っていただけた。何回か資料を追加しながら、しばらく続けた。とても人気のある作家だったと改めて思った。 「子ども食堂おはなしかい（たくちゃん食堂)」 出張おはなし会を実施した。お弁当を受け取るとすぐ帰られる方が多かったため、今後も子ども食堂と調整し、依頼者の希望に合わせて臨機応変に対応していきたい。また、こちらには高齢者の施設も併設されており、炎天下のため短時間ではあったが、今年初めて高齢者の方にも読み聞かせを行うことができた。 「伝筆（つてふで）ワークショップ」 ペン習字と言葉のワークショップ、いわゆる本と言葉、表現活動をつなぐ、体験型ワークショップという形で企画した。習字となると、墨の使用で部屋の汚れを気にしてなかなか実現できないが、今回はペン習字で、気軽に字を書くことに挑戦してもらえた。デザイン的な要素もあり、書き順にとらわれないことで書き方の新しい発見があり、同じ字でも個性あふれるものになった。それぞれお互いの作品を見せ合いながら、新たな気づきがあったようだ。講師が参加者の名前を書いてくれ、それを手本に早速自分でも書いてみる参加者が多くいた。 「芝生の上のおはなし会　工作会」 つるせ台小学校の校庭で実施。工作は、読み聞かせの絵本の中にも登場するパラシュート作りを行った。広い校庭で夢中で遊び始める子もいて、最後は自然解散になったが、簡単に作れて遊べる、という点でよかった。この時期でもかなり気温が高かったので、実施時期は今後検討していきたい。 ６月 「スペシャルおはなしかい　いちぶえいご」 年に３回実施している。参加する本人だけでなく、親御さんがとても熱心である。参加者にも声を出してもらうため、歌の後でパネルに書いたものを見てもらい簡単な英語でやり取りしながら進めた。

「あかちゃんとわらべうたで遊びましょう　Ａグループ、Ｂグループ」
申し込みいただいた方の近い月齢でＡ、Ｂグループに分け、同日に時間を分けて実施した。
Ａグループは０歳児。赤ちゃんとの会話の始まりであるわらべうた。赤ちゃんの目をまっすぐ見ながら色々な遊びをしていく。赤ちゃんの豊かな観察力や吸収力、喜びが感じられる回となった。遊びは、家庭でも保護者と一緒に楽しめる内容となっている。
Ｂグループは１歳児。動きやできることが増える成長に合わせた遊びをそれぞれに行う。また母親への接し方のアドバイスがあり、親子とも笑顔あふれる時間となった。

関沢児童館・図書館コラボ　「いっしょに遊ぼう！」
関沢児童館はつるせ台公園で活動しているが、天候に左右されない活動の場としてこの企画が始まった。七夕飾りやミサンガを作り、その後読み聞かせを行った。１時間で遊ぶには盛りだくさんの内容で忙しいが、子どもたちはしっかり遊んでいる。

７月
「大人向け読書感想文ワークショップ」
※台風のため、６月から７月に延期
いつもは対象を小学生としているが、例えば夏休みの家庭学習に役立てたい方、1 冊の本を読み深めるご自身の学び、また以前の小学生向けワークショップ参加者の成長に伴う講座として、中学生以上を対象とした。実際に原稿用紙への執筆は行わなかったが、本の読み解き方や感想の膨らませ方を学ぶ「考える読書」を行った。
当日は中学生から７０代までが参加。戦後を描いた課題本に対し、幅広い世代で異なる感想が交わされたことで、互いに理解を深め、本を通して世界を広げ合う新たな気づきの時間となった。

「たなばたかざり」
館内に笹を設置し、短冊を書いて飾ってもらった。子どもたちの願いごとを見た大人の方から、微笑ましかった、との感想もあった。

「２０２６　科学講座カードゲーム〈ぶんしっし〉」
カードゲームを使って、空気中の分子について学ぶ。対象は小学生で、空気中にあるものを目に見える形で表現する模型やビンゴ、映画などを使い、様々な方向、角度から学んでいく。この〈ぶんしっし〉は、継続してＮＰＯ法人楽知（らくち）ん研究所での受講ができるので、今後も分子について考えを深めるきっかけになればと思う。

「夏休み応援講座～読書感想文書き方ワークショップ～（１回目）」

	小学校１、２年生と３、４年生を対象に、講師の講義を受けて次のステップに進む。リピート率が高く、兄弟姉妹や、昨年に引き続いての参加が多かった。 「～読書感想文書き方ワークショップ～あと一歩のお手伝い（２回目）」 今回のワークショップでは、過去の受講経験者から「昨年とは違う書き出しにしたい」といった相談など、講師がいる間を活用して参加者の様々な困りごとに寄り添うサポート体制をとる開放講座という形をとった。また、「図書館で宿題を仕上げさせたい」という保護者の要望を受け、最後まで会場に残って講師に質問をするなど、その場で作品を書き上げようとする熱意に満ちた親子の姿もあった。 「学校連携の報告」 鶴瀬西分館併設のつるせ台小学校１年生には、新しく作った図書館利用者カードを夏休みに使いやすくするため、「夏休みは本を読もう！」と題し、鶴瀬西分館からは読み聞かせ、ブックトーク、館内案内を行い、また読み聞かせボランティアすぷんふるからはストーリーテリングを行った。鶴瀬小学校は、学校図書館が一時閉室することから来校の依頼があり、１、２年生に「夏休みにおすすめの本」を紹介するため訪問し、ブックトークを行った。富士見台中学校はＹＡサポーターの交流会や８月の工作のイベントのため、図書館に来館してくれたほか、１学期の終わりには家庭科部から造花の寄贈を受け、館内が華やかになっている。 「本への愛を叫ぶ！！激推しＰＯＰ作り」 富士見市読書コンクールのＰＯＰ審査にも対応できるＰＯＰ作り講座を実施した。ＰＯＰについての説明を受け、宿題としてだけではなく、自由にＰＯＰ作りを楽しみ自分の読んだ本についてどのように伝えていくか、またそれぞれの伝えたい対象に向けて、とても伸びやかな作品ができた。
図書館	**【ふじみ野分館】** ・資料に基づき報告 お話会や映画会等の数字は資料の活動報告の通りである。 自主事業の報告 ５月 「春のはらっぱおはなし会」 勝瀬原記念公園を使い、野外でお話会を実施した。事前にふじみ野児童館がシャボン玉を行い、その後ふじみ野分館のプログラムに移った。屋外でマイクを使ったので声が聞き取りにくかったが、子ど

	もたちときちんと受け答えができ、とても和やかで楽しい雰囲気だった。 「ぶんちゃんひろば５月　牛乳のヒミツ」 熊谷家畜保健衛生所から、２名の講師に来ていただき実施した。牛乳だけではなく、家畜を飼っている現場のことなど非常に幅広い観点からのお話を伺えた。乳牛の等身大ポスターが圧巻だった。 ６月 「耳をさわるだけ！疲れ目を癒す　耳つぼ講座」 身体の基本的な構造から、耳つぼの話に繋げてくれた。応募締め切り後、９名の方をお断りした。講師は、一人ひとりに声をかけ丁寧に講義を進めてくれた。継続したい事業である。 「ぶんちゃんひろば６月　ラベンダーを飾った手練り石けん」 実際にゼロから石けんを作った。講師から作成の流れや環境についての講義を受け、材料をこねて石けんを作り、ハーブで飾りつけをした。親子で作れて楽しかった、という感想を多々いただいた。 ７月 「ビブリオバトルデモンストレーション」 ふじみ野小学校から、ふじみ野交流センターで開催する、「勝瀬ｄｅ縁日」の「ミニビブリオバトル」参加に向け、ビブリオバトルのデモンストレーションを実施してほしいという依頼があった。５年生２クラス、７０名を対象に、ふじみ野分館から３名のバトラーが訪問し行った。実施当日、翌日と、紹介した本に予約が入り、貸出につながった。縁日には、同小３年生から５名の応募があった。 「ぶんちゃんひろば７月　勝瀬中学校科学部の実験教室　踊りくるうストローと水の中のエレベーター」 勝瀬中学校科学部の生徒たちに来てもらい、科学実験を行った。最初に絵本「きんぎょが にげた」をスクリーンに映し出し、男子生徒２名で読み聞かせをするところから開始した。今回は、ストローが自由に動き回る「踊りくるうストロー」と、水の入ったペットボトルの中をしょう油差しの金魚が上下する「浮沈子」を作成した。生徒たちも小学生と交流しながら、大変楽しい時間を過ごしていたようだ。３年生は、今回が最後の講座となった。 「夏休みおたのしみ会」 勝瀬中学校から６名のボランティアに来てもらい、小学生と一緒に小物作り、ボードゲームなどを楽しんだ。中学生には、当日早めに来てもらい、打ち合わせを行ったうえで実施した。常日頃、小学生は弟妹としか話さないという生徒、兄姉以外のお兄さん、お姉さん

	と話せて良かったという児童の声が聞こえ、地域のつながりを作る一助になれたと感じた。 「令和８年度　夏休み科学講座　不思議な石のひみつをさぐろう」今回は、石灰石について実験した。石灰石を水に入れて泡が出る反応や、ハンマーで割ると同じ形に割れていくなど、実際に体験してもらった。最後には、石灰石をお土産で持って帰ってもらった。 **【質疑応答】**
委員	鶴瀬西分館の「大人向け読書感想文ワークショップ」では、その場で読めるくらいの本を使ったのか。
図書館	絵本を使った。
委員	ふじみ野分館からの報告にあったように、勝瀬中学校とのコラボなど、その館ならではの工夫している事業があり、ぜひこれからも続けてほしい。また、鶴瀬西分館のリピート率が高いという感想文の書き方ワークショップなど、３館ともそれぞれ良いことをしているので、各館のノウハウを生かして他の館でも実施してほしい。また、図書館から遠い地域にいる子どもたちが、移動の制約により魅力的な事業に参加できない現状がある。図書館や生涯学習課だけでなく、教育委員会全体で広く参加支援の対策を検討してほしい。 中央図書館で報告があった、デイサービスセンターへ訪問した「出張・対面朗読会」だが、施設訪問によるサービス周知の機会を増やしてほしい。音訳サービスを必要としている潜在的な利用者は多いが、情報を届ける方法が課題となっている。「図書館に来られない人」に届く周知の工夫が必要である。広報の提案として、富士見市のＬＩＮＥを活用するのも良いと思う。
委員長	富士見市にある駅は３駅。みずほ台駅の両出口には図書館がない。鶴瀬駅には鶴瀬西分館、富士見市立中央図書館、三芳町立中央図書館、ふじみ野駅にはふじみ野分館がある。みずほ台駅周辺は図書館空白地帯だったので、かつては近隣の公園などを使ってお話会をやっていた。図書館のない地域は長年の課題である。 音訳者についてはどうだろうか。平成６年に中央図書館が開館した際には、まだ障がい者サービスは開始していなかった。同じ年に対面朗読、音訳を開始した。図書館と音訳者グループとでは、それぞれ役割を分担して協力してきた。
委員	視覚障がい者等の利用者目線に立ち、図書館や市役所の各部署で窓口を縦割りにせず、生涯学習課が中心となって関係各課やボランテ

	ィアとのつながりを集約し、一本化された利用しやすいサービスを受けることはできないのか。
委員	利用者のリクエストに対し、ボランティア側でみなサーチ、サピエ等で検索し、録音図書の有無を確認したうえで、図書館とも情報共有を行うなど緊密に連携している。ただし、公立図書館には著作権法上の制約や様々な行政上のルールがあるため、お互いの役割を認識しつつ、今後の検討課題として柔軟な提供方法を模索していく必要がある。
図書館	富士見市の障がい者サービスは歴史が長く、近年では、Ｚｏｏｍ対面朗読や宅配サービス等も行っている。他市から視察が来るなど先進的であり、職員や若い担当者も尽力している。しかし、その実績や活動内容が一般市民や周辺自治体、さらには行政職員内にも十分に伝わっていない。ＰＲ不足を解消し、サービスを必要とする対象者やその周囲の家族・支援者へ情報が届くよう、生涯学習課や障がい福祉課等とも連携して、さらなる周知に努めたい。
委員長	ＬＩＮＥを活用した広報についてはどうか。
生涯学習課	ＬＩＮＥは市が管理しているので、市の事業や市からのお知らせを載せている。ただ、多くの課が事業を行っており情報量が多いため、取捨選択はさせていただいている。図書館からのお知らせも、生涯学習課で受け取り、ＬＩＮＥの担当部署に依頼している。
委員	シティプロモーション課だと思うが、生涯学習課にあげたものを、さらにシティプロモーション課で取捨選択する形か。
生涯学習課	その通り。情報量が多いので別の機会に回すなどの判断や、災害情報は優先的に流すなどの判断がされている。
図書館	ＬＩＮＥに関しては、行事によっては生涯学習課を通してポスター等を何回か活用している。
委員長	ＬＩＮＥの活用は、しっかり連携を取りながら進めていきたい。
委員	図書館から距離のあるエリアに住んでいる市民、子どもたちが、事業に触れるチャンスがあると良いという話もあったが、それは今後考えていかなければならないことと思う。先ほどの報告で、デイサービスでの出張されるのなら、公民館で市民や子どもを集めて実施するなど、そのような実績や計画はあるか。
図書館	水谷公民館で開催されたビブリオバトルに図書館として参加するな

	ど、公民館主催のイベントに出張することはあるが、子どもがどの程度参加するかはイベントの内容によっても変わる。
委員	市内の図書館３館ともそれぞれ行っている企画が魅力的だし、どうやって情報を得ているのか、情報のネットワークがどのように構築されているか興味がある。また、実施するにあたり、予算や人員確保、イベントの準備に要する時間など通常業務を行いながらの実施に無理はないのか。可能な限りで良いのでお聞かせ願いたい。
図書館	予算に関しては、なるべく費用を抑えられるところを探す。ある程度の金額内であれば予算を組んで実施している。
委員	図書館から外に出て事業を行うのは大変か。
図書館	例えば学校に要望を聞くと、ブックトークを希望されることがあるが、ブックトークを実施するまでには人員確保、テーマ、本の選書などの準備が必要になる。また、今回システム更新で学校図書館が順番に閉まっているので、貸出本１００冊用意してほしいなど、同じ期間に多数の学校から同様の依頼をいただくと、対応にはある程度時間が必要となる。
委員	情報発信の新たな試みとして、教育委員会が小中学校の図書室に壁掛けモニターを設置し、昼休み等の時間に合わせて図書館から本の紹介やイベント情報を配信することができたら理想的だ。従来のＳＮＳによる発信は閲覧するのが本人次第という課題があったが、常時宣伝が流れるモニターを設置することで、児童生徒が図書室に集まるきっかけができる。結果として図書室の本に触れる機会が増え、各種企画への参加意欲を高めることも可能なのではないだろうか。
委員	家庭環境に関わらず、市内の子どもに本や楽しいイベントに触れるチャンスを提供するため、学校図書室に加え、市立図書館という居場所の存在を伝えていく必要がある。 現在、子どもたちのタブレット利用が進んでいるが、デジタルに偏よるのではなく、本とタブレットの双方をバランスよく用いて情報を検索する力を養うことが重要である。調べ学習の手段として本を有効活用できるよう、専門性を持つ学校司書を市としてより活かせる体制が望まれる。
委員長	図書館員というのは、普段からアンテナを張り巡らせて情報を得ている。それも広く、ある程度深く。それが図書館員、ライブラリアンの専門性だと思う。

	３．その他 「第５次富士見市子ども読書活動推進計画」の進捗状況について
生涯学習課	現在の計画が来年度までの計画となっており、今回の結果と時期の目標を我々で考え、図書館協議会の皆さまにご意見をいただきながら作りあげていきたい。お配りした冊子にお目通しいただき、ご質問、ご意見をいただければと思う。
図書館	現在の計画を振り返り、反省も含め、次にどんな項目を入れたら良いか、不明な点などあったら、意見をいただければと思う。
委員長	今後、協議会の中で議論していければ良い。 次回図書館協議会開催日程 次回は１２月１８日（金）午前１０時から中央図書館のレセプションルームにて行う。 ５．閉会